

令和6年度

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について



東大阪市花園ラグビー場



令和7年3月

東大阪市教育委員会

目 次

I. 調査の概要	1 ページ
II. 調査結果	
実技調査(小学校 5 年生)	2 ページ
実技調査(中学校 2 年生)	3 ページ
実技調査の分析、考察	3 ページ
質問紙調査(小学校 5 年生)	4 ページ
質問紙調査(中学校 2 年生)	5 ページ
質問調査の分析、考察	6 ページ
III. 今後の方針	6 ページ

I. 調査の概要

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査の対象とする児童生徒（東大阪市）

小学校及び義務教育学校前期課程第5学年（対象児童 3,351人）

中学校第2学年、及び義務教育学校後期課程第8学年（対象生徒 3,268人）

3. 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 実技調査

小学校〔8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校〔8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走または20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する内容

(2) 学校に対する調査（質問紙調査）

学校における体育、保健体育の指導及び特別活動に関する内容

4. 調査実施期間

令和6年4月～令和6年7月末

[補足] 「II. 調査結果」について

※ 全て、公立学校における数値

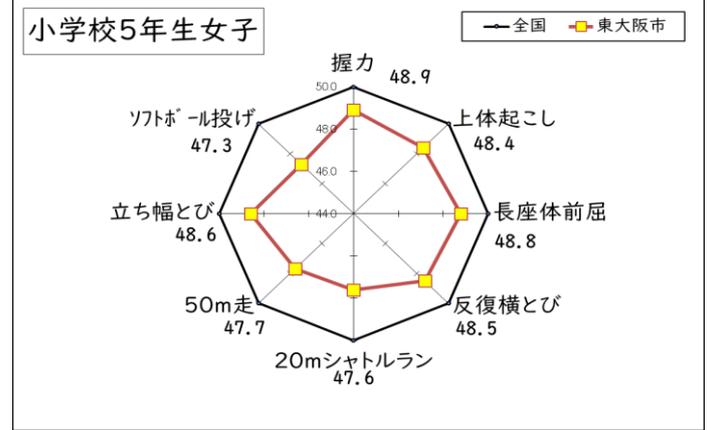
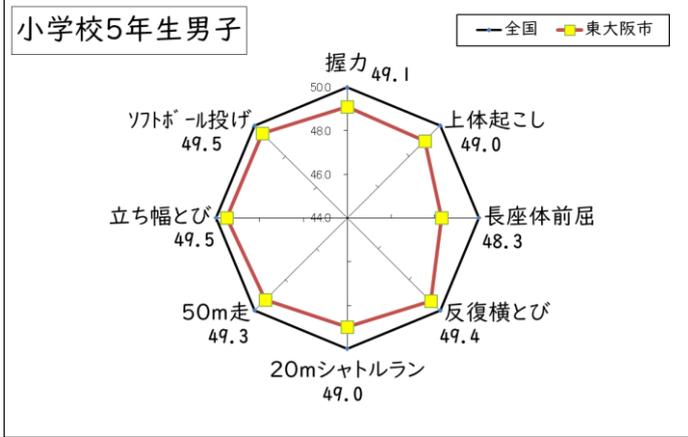
※ 大阪府の数値は指定都市を除く

Ⅱ. 調査結果

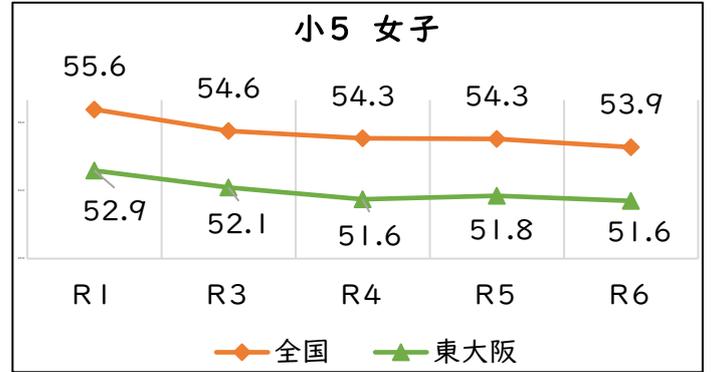
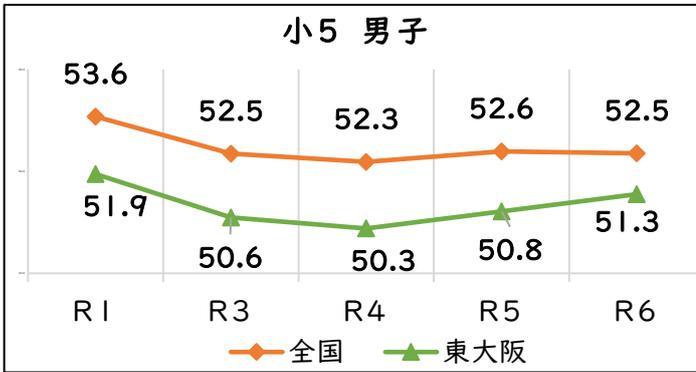
実技調査

小学校5年生

* 令和6年度 [Tスコア(偏差値)] … 全国平均を50としたときの全国と東大阪の値



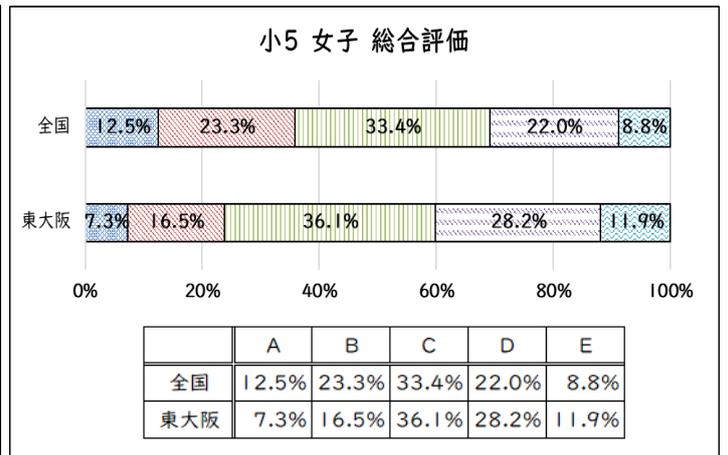
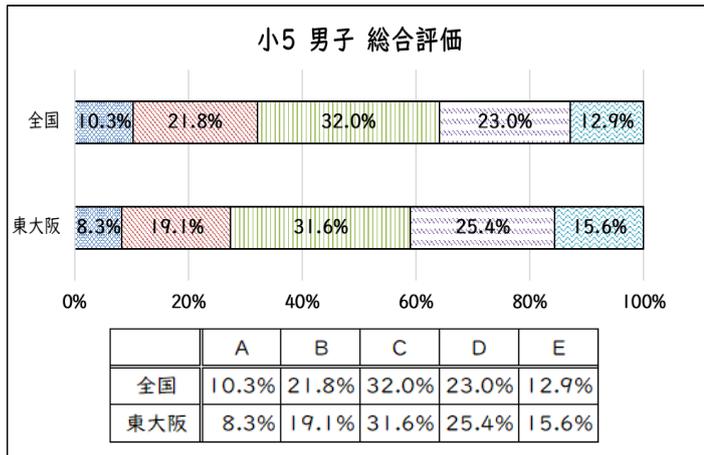
* 体力合計点[平均値]の推移 (R2は新型コロナウイルス感染症により未実施)



* 令和6年度 [平均値]

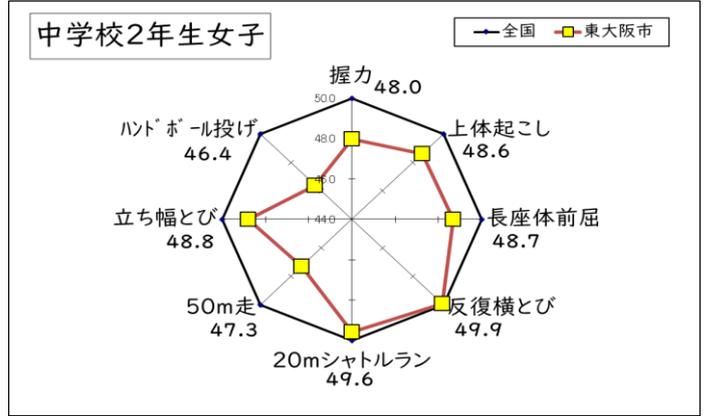
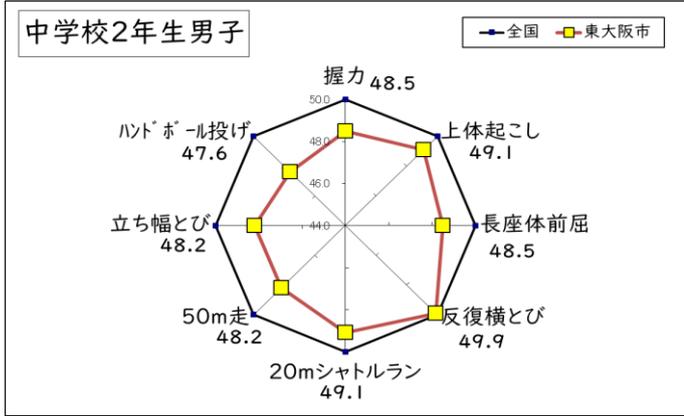
		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
小学校5年(男子)	全国	139.53	35.16	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
	東大阪	139.39	35.21	15.68	18.60	32.32	40.15	44.88	9.58	149.24	20.32	51.33
		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
小学校5年(女子)	全国	140.96	34.92	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
	東大阪	140.84	34.99	15.34	17.28	37.06	37.61	32.72	9.99	140.02	11.87	51.55

* 令和6年度 [総合評価] 体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定

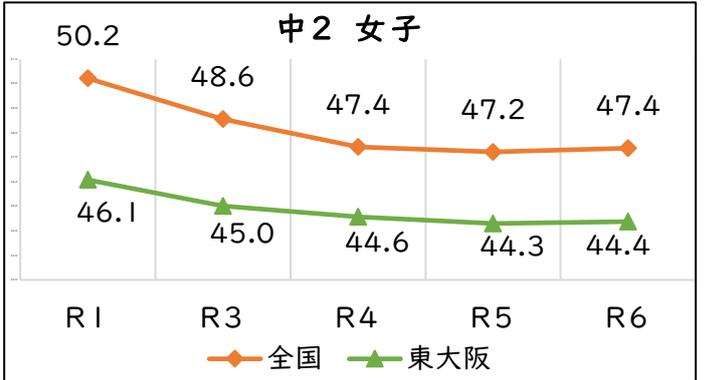
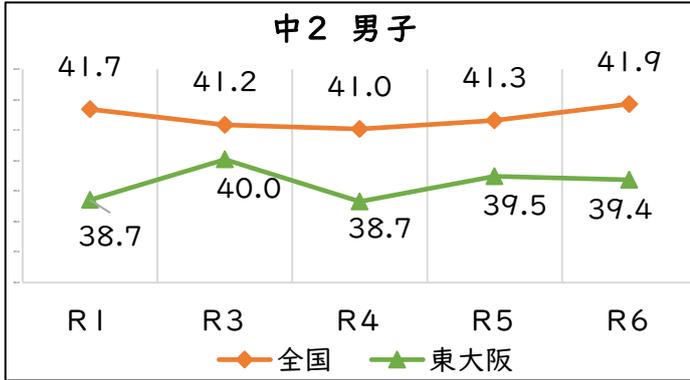


中学校2年生

* 令和6年度 [Tスコア(偏差値)] … 全国平均を50としたときの全国と東大阪の値



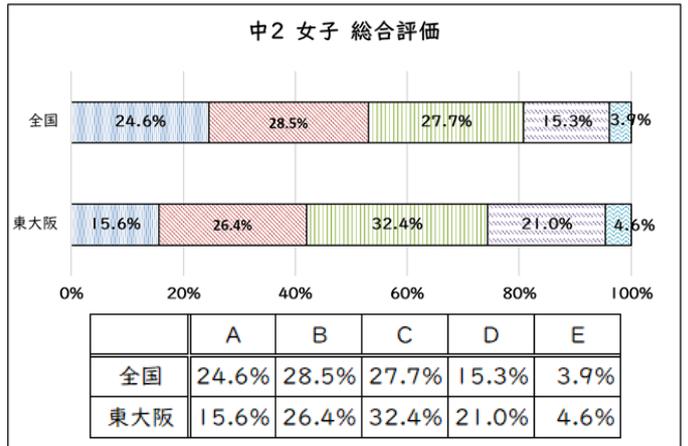
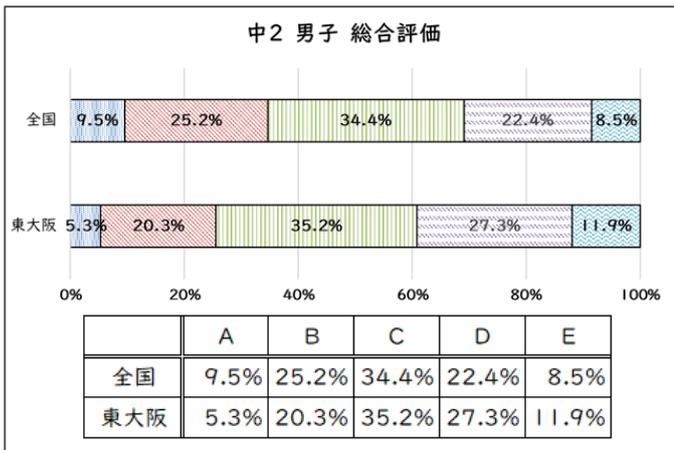
* 体力合計点[平均値]の推移 (R2は新型コロナウイルス感染症により未実施)



* 令和6年度 [平均値]

		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
中学校2年(男子)	全国	161.29	50.10	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
	東大阪	161.54	50.98	27.88	25.39	42.80	51.40	76.69	8.16	191.44	19.06	39.37
		身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	得点合計(点)
中学校2年(女子)	全国	155.03	46.77	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37
	東大阪	154.99	46.13	22.21	20.74	45.04	45.59	49.81	9.20	162.81	10.85	44.37

* 令和6年度 [総合評価] 体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定



実技調査【分析、考察】

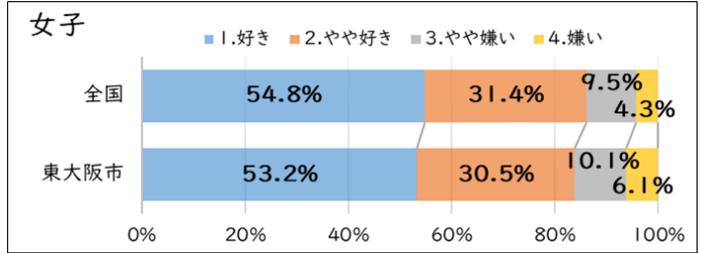
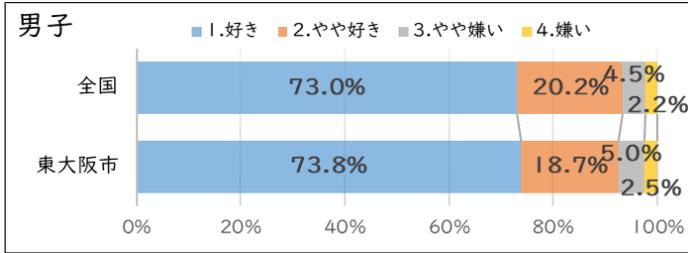
各種実技項目の結果は、全体的に全国よりも低い傾向がみられるが、反復横跳びの結果から「俊敏性」は全国と同水準と言える。体力合計点は、小学校男子及び中学校男子でコロナ禍以前とほぼ同水準に戻っているが、小学校女子及び中学校女子は同水準には戻っていない。今後も、運動やスポーツを行うことの楽しさや喜びを体感させるとともに、発達段階に応じて、筋力や持久力等の体力を高める運動やストレッチ等を取り入れながら、バランスのよい体力づくりを行うとともに、ICTも活用するなど、さらなる取り組みの工夫が必要である。

質問紙調査

小学校5年生

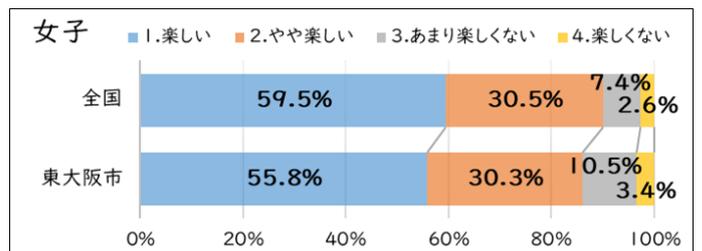
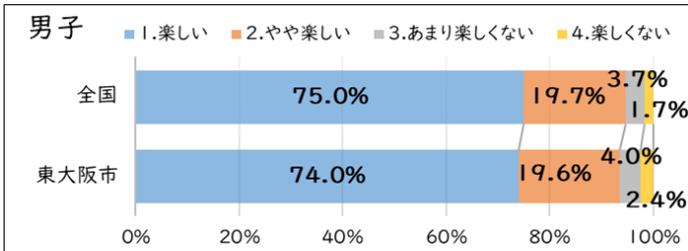
【生活に関すること】

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

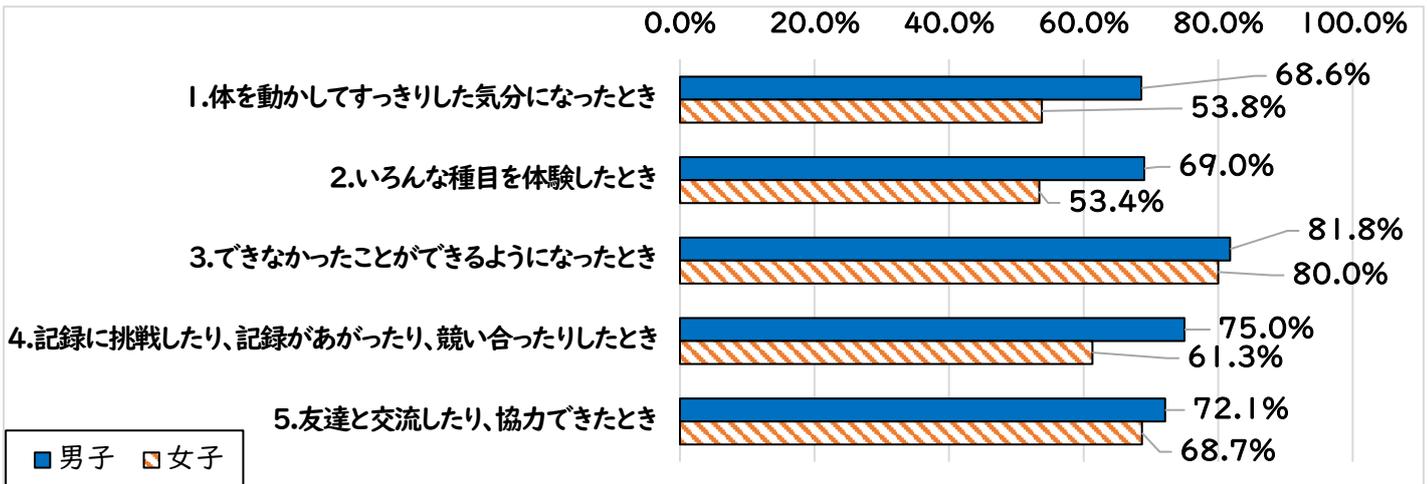


【体育の授業に関すること】

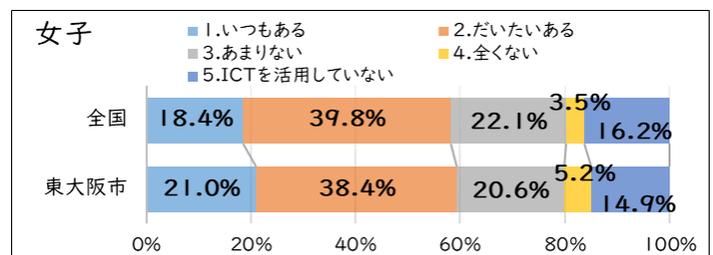
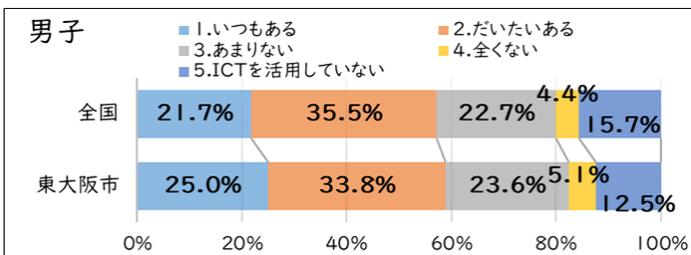
○ 体育の授業は楽しいですか。



○ どんな時に体育の授業が楽しいと感じますか

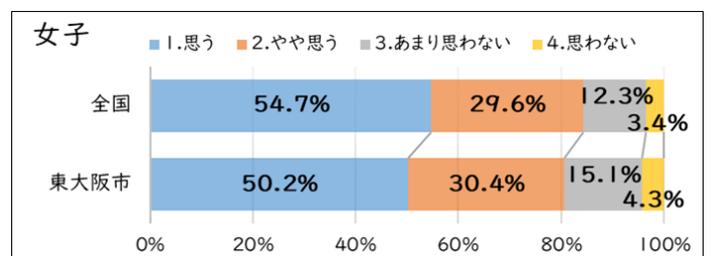
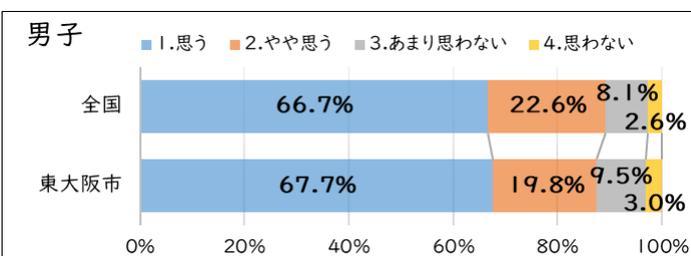


○ 体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【中学校進学後のこと】

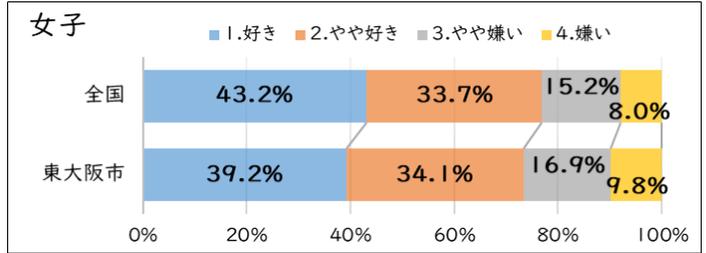
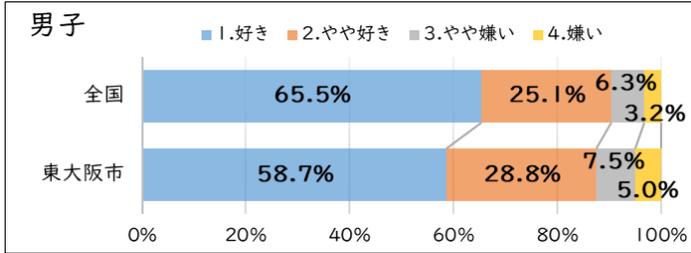
○ 中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



中学校 2 年生

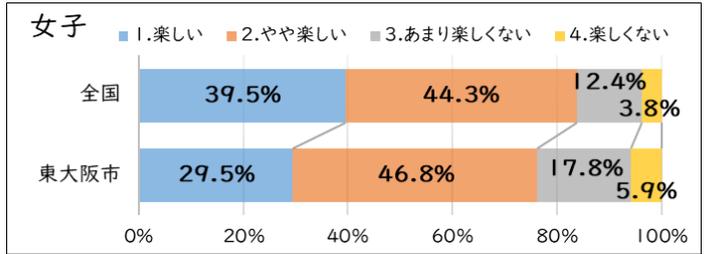
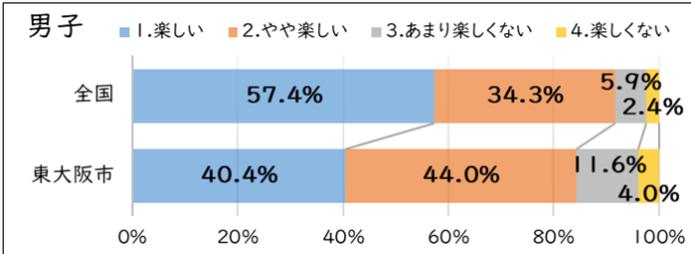
【生活に関すること】

○ 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。

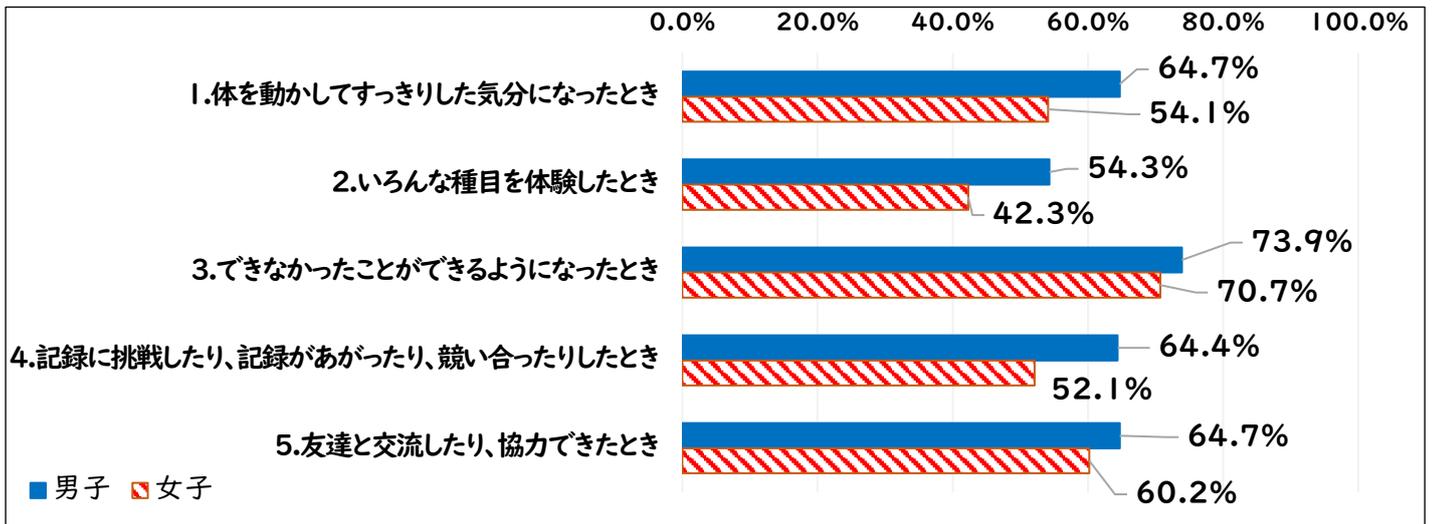


【保健体育の授業に関すること】

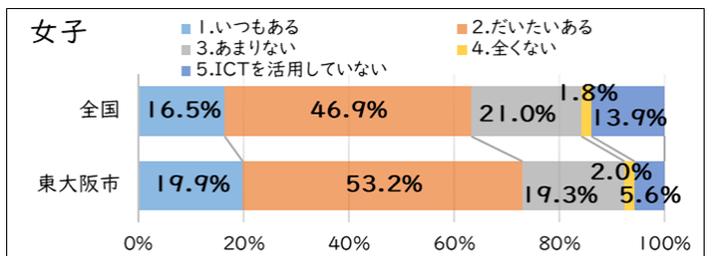
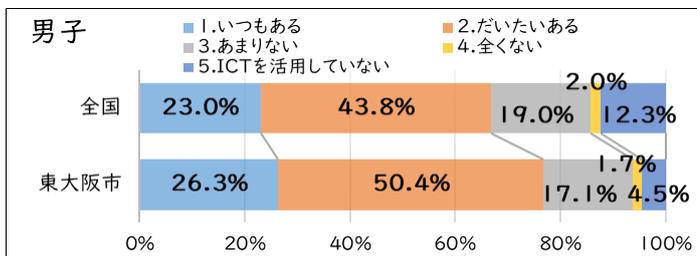
○ 保健体育の授業は楽しいですか。



○ どんな時に保健体育の授業が楽しいと感じますか

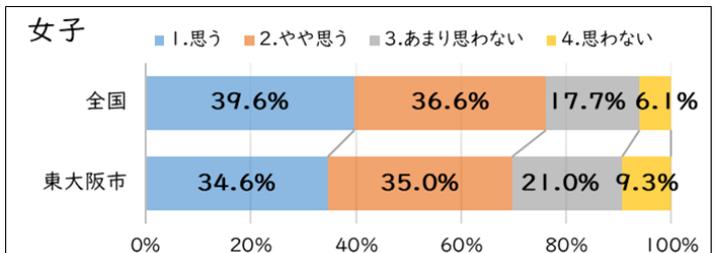
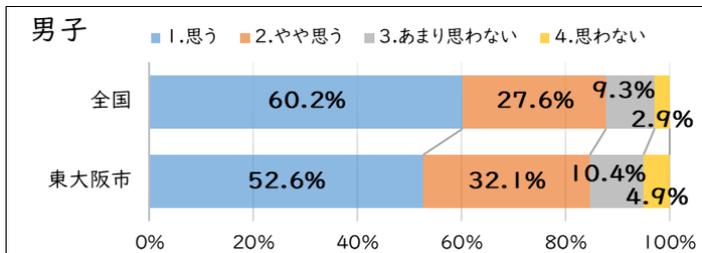


○ 保健体育の授業で、タブレットなどの ICT を使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



【卒業後のこと】

○ 中学校を卒業した後も、自主的に運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



質問紙調査【分析、考察】

小学校5年生男子は「運動やスポーツが好き」と答えた割合が全国平均と比べて高く、他は全国よりも低い。

「体育の授業が楽しい」と感じる割合は全国よりやや低いが、「どんな時に体育の授業が楽しいと感じるか」を問う質問では「できなかったことができるようになったとき」が、他の項目よりも高く、成功体験や達成感が体育の楽しさに大きく影響すると考えられる。その他の項目としては、小学校では「友達と交流したり協力できた時」が、中学校では「からだを動かしてすっきりした気分になったとき」、「友達と交流したり協力できた時」が、上位に位置する。

「タブレットなどのICTを使って学習することで、できたりわかったりすることがある」と答えた割合は全国より高く、ICTの活用が知識技能の習得に繋がっていることがわかる。「進学後、卒業後も自主的に運動やスポーツをしたい」と考える割合については、全国よりも低い。

成功体験や達成感を感じることで体育の授業を楽しめる傾向があることから、個に応じた目標設定や細分化した目標設定を行った指導が効果的であると考えられる。ICTを活用した知識技能の習得にかかる意識が全国平均より高く、ICTの活用が有効な学習の手段であり、体育におけるICTの活用が進んでいることがうかがえる。ICTの活用は、自ら課題を見つけ、その解決に向けた「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成につながると考えられることから、発達段階に応じた運動方法を工夫するとともに、運動の記録やフォームの分析など、ICTの活用方法を工夫することで、さらなる知識技能の獲得に繋がるものとする。

進学後の運動継続意識を高めるため、学校全体で運動の機会を増やし、持続的なスポーツ活動を促進する環境を整えることが必要であり、また、運動領域と保健領域との関連を図った指導をより一層すすめることで、児童生徒が運動と健康との関係性を深く理解し、実生活に運動等を取り入れやすくなるものと考えられる。

運動やスポーツへの関心を高め、生涯を通じてスポーツに親しむことができる態度を育成するため、運動することで得られる達成感や気持ちよさ、また友達との交流による楽しさを感じられる授業づくりが重要であるとする。

Ⅲ. 今後の方針

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から見られる本市の児童生徒の体力・運動習慣等の課題について、その改善を図るため、以下の取組みを進めていく。

○本市の取組み

- ・結果の分析を行い、本市の課題を明らかにし、今後の方策について検討するとともに学校に発信する。
- ・学校の工夫した取組みや全国、大阪府の好事例を収集し情報提供を行う。

○学校における取組み

- ・本調査の「記録シート」等を通して児童生徒自らが自分の運動能力を知り、今後の運動の目標を持ち、実践できるように努める。
- ・保健体育の授業において、一人ひとりが達成感を得られるよう、きめ細かい指導を行うとともに、運動量の確保に努める。
- ・体力向上に関する府・市の実施する事業等を有効活用し、継続的に児童生徒が運動に親しむ機会をもてるように工夫する。
- ・各校において、一人ひとりの児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等を把握し、課題の改善に向けた取組みを推進する。

○幼児期からの取組み

- ・幼児期から遊びを通して運動に親しみ、体を動かす心地よさや楽しさを体験し、健康な体づくりや運動に取り組む意識を育てる。
- ・幼稚園、こども園、小学校、中学校、義務教育学校が連携し、発達段階に応じた指導・取組みの充実を図る。

○家庭・地域との連携

- ・園児・児童・生徒の運動習慣・生活習慣の見直しと改善を図るため、学校園と家庭、地域が連携し、地域のスポーツ行事等への参加の啓発等、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力の基礎を育てる取組みを進めていく。

○各研究会との連携

- ・東大阪市小学校体育研究会、東大阪市中学校保健体育研究会と連携し、授業研究や体育的行事についての取組みの充実を図る。